

議会だより

2020年10月15日発行
(令和2年)

Vol.148

山形県白鷹町議会
9月定例会

しらたか



「みんなで LOVE」 荒砥高校 文化祭

| | |
|------------------------------|-----|
| 豪雨災害・地域経済変動対策基金条例 | ② p |
| 令和元年度決算審査 | ④ p |
| ここが聞きたい 本会議一般質問 2人の議員が町政を問う | ⑫ p |
| シリーズ企画 知れば得する“ぎかい”のキホン「政策提言」 | ⑮ p |
| 追跡 あの質問のゆくえ ALT(外国語指導助手)の配置 | ⑲ p |
| インタビュー ボランティア白鷹の未来を彩る | ⑳ p |

お手持ちのパソコンやスマホなどで
議会中継をご覧いただけます。
録画でもご覧いただけます。



この広報は、議員の自主編集で発行しています。

9月定例会は9月3日から15日までの13日間で開かれ、2議員が一般質問しました。災害時の避難所運営や農業生産額拡大の取り組みなどをたどしました。また、令和元年度決算認定10件を決算特別委員会で審議し、本会議で全会一致で可決しました。ほかに補正予算6件、契約2件、条例3件、人事1件をいずれも全会一致で可決しました。

令和2年7月豪雨

平成25年、26年を超えた
累計雨量 260 mm

被害状況

住宅：床上浸水2件・床下浸水23件

農作物：151.2haで約4,583万円

農地・農業用施設：94か所で約2億7,866万円

林道：15路線で約7,481万円

公共土木施設：道路60路線・河川42河川・橋梁3か所で約10億円



国道348号線土砂崩れ現場



実淵川鮎貝堰頭首工付近



谷町川（鮎貝地内）



坂下平田中山線土砂崩れ現場



中山地内農業用水路

(8月12日視察)

全員協議会で説明を受けた際の質疑（抜粋）

8月3日、8月20日開催

避難所の運営はどのように行なったか。

議員

当局

各コミセンに職員を配置し、体調チェックや間隔を空けるなどのコロナ対応をした。

指定避難所以外の場所でもコロナ対策がとられたか。

各分館でもコロナに配慮して対応した。

情報提供はどのようなタイミングで何回行われたか。

Jアラート、フェイスブック、ホームページでその都度発信した。

昨年、水害で故障した雪舟町新田排水機場は大丈夫か。

再度冠水した。土地改良区と連携しながら対応する。

ハザードマップと今回の被害は合致しているか。

早急に検証したい。

各区からの修繕要望との関連は把握しているのか。

把握している。前回の豪雨災害で被災した箇所の前後等もあり、順次把握したい。

長期にわたる 緊急的な経済対策のための **※ 基金を創設**

9月3日、「白鷹町地域経済変動対策基金条例」の提案があり、議会としてこれを可決しました。

この条例により補正予算で3,000万円が積み立てられ、町が実施する利子補給などに使われます。

※基金：特定の目的のために準備された資金のこと

基金条例の第1条が **こちら** です

第1条 新型コロナウイルス感染症の影響が拡大している中、地域経済の変動に対応する緊急的な経済対策や金融対策として、町が実施する長期にわたる利子補給及び保証料補給等により、業績が悪化している中小企業等の経営安定化と本町産業の振興に資するため、白鷹町地域経済変動対策基金を設置する。



新型コロナウイルスの影響を受けた
事業所や、個人事業主が対象です。

利子補給・
保証料補給に充てるための **基金** です

決算審査は111質疑で審議

各会計決算の議決状況

| 会計項目 | | 歳入（収入） | 歳出（支出） | 議決状況 | |
|------|------------|------------|------------|-----------|-----------|
| 一般会計 | | 103億878万円 | 95億9434万円 | 全員賛成により認定 | |
| 特別会計 | 十王財産区 | 352万円 | 47万円 | | |
| | 下水道 | 5億8126万円 | 5億6429万円 | | |
| | 国民健康保険 | 14億6871万円 | 14億5488万円 | | |
| | 農業集落排水 | 1億4753万円 | 1億4302万円 | | |
| | 介護保険 | 16億9141万円 | 16億2436万円 | | |
| | 後期高齢者医療 | 1億5096万円 | 1億4904万円 | | |
| 事業会計 | 水道 | 収益的 | 3億2628万円 | | 2億7754万円 |
| | | 資本的 | 1981万円 | | 4138万円 |
| | 病院 | 収益的 | 10億3503万円 | | 11億1484万円 |
| | | 資本的 | 1億3230万円 | | 2億2937万円 |
| | 訪問看護ステーション | 収益的 | 1968万円 | | 2382万円 |
| | | 資本的 | 0円 | | 0円 |
| 合計 | | 158億8527万円 | 154億2546万円 | | |

（万円未満は端数を調整しています。）

※「収益的」は事業に係る収入と支出。「資本的」は施設・設備に係る収入と支出。

令和元年度の決算を審査

議会で可決した予算が適正に執行されたかを審査するとともに、その行政効果や経済効果を精査し、住民に代わって審査しました。審査の結果は、後年度の予算編成や行政執行に生かされます。

6ページから関連記事

令和元年度に行った主な投資的事業

（万円未満は端数を調整しています。）

| | | | |
|----------------|-----------|----------------|----------|
| ・まちづくり複合施設整備事業 | 11億5743万円 | ・林業成長産業化総合対策事業 | 1億3547万円 |
| ・老人福祉施設整備事業 | 4億8753万円 | ・橋梁安全対策事業 | 4854万円 |
| ・地域交流商業施設整備事業 | 2億8392万円 | ・圧雪車整備事業 | 3543万円 |
| ・小中学校冷房設備整備事業 | 1億9998万円 | ・調理場設備整備事業 | 2090万円 |

賛成
討論

町民の声を傾聴せよ



菅原 俊一 議員

歳入を見ると、町税より交付税などへの依存度が高く脆弱な財政状況が続いている。今後も税収の減少が懸念されるが有利な財源を確保して財政を支えていく必要がある。

施策別には、現代の生活に即した母子手帳アプリの導入や、小中学校への冷房設備の整備、ALTの増員、若者に対する住宅施策など

を評価する。半面、遅々として進まない六次産業化事業や森林境界明確化など課題は多い。

少子高齢化や、新型コロナウイルス感染症の影響で町政のかじ取りは難しくなることが予想されるが、町民の声に耳を傾け尽力いただくことを願う賛成討論とする。

監査意見

計画的・効率的な行財政運営に努めるとともに、より効果的な事業を展開し、町民の福祉とサービス向上に寄与されることを期待する。

積極的に事務事業が展開されたことにより、主要な施策をはじめ各事業にその成果が表れたものと認められる。

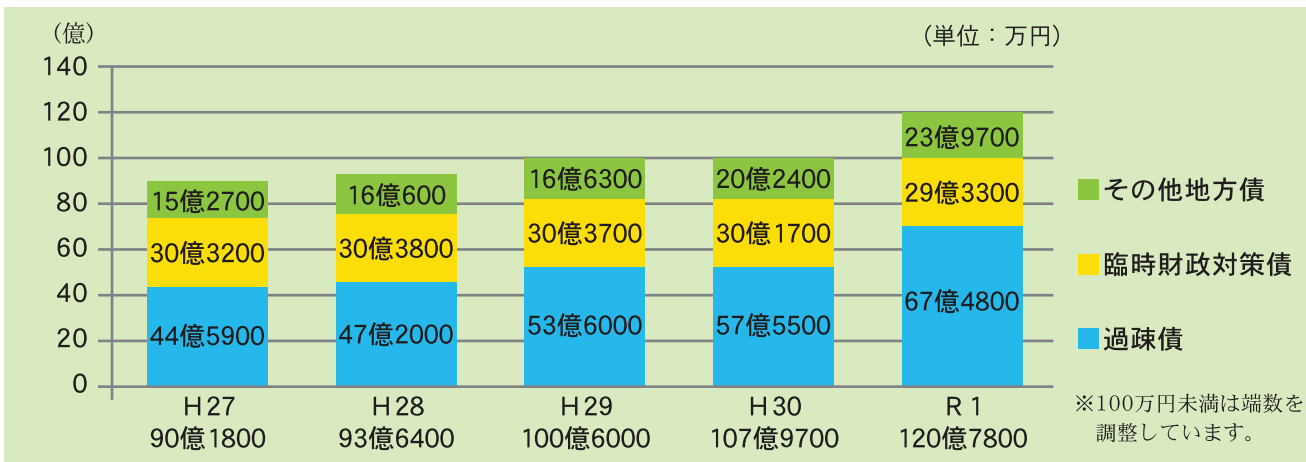
実質収支は6億9379万2千円の黒字となり、実質収支比率は前年度に比べ0・1ポイント減少し14・6%となった。経常収支比率は、0・3ポイント減少し88・9%となった。わずかながら改善はみられるが硬直化は続いている。地方債残高は、大規模事業の実施に伴い発行額が償還額を上回り、12億8099万4千円増加した。

また、公債費の増加に伴い実質公債費比率は、8・4%と0・2ポイント上昇した。町政の重要課題において、積極的な事業が展開されたことを評価する。厳しい財政状況が続くが、新たに策定した第6次行財政改革大綱における行動計画を着実に実行するとともに、より効果的な事業を展開し、町民の福祉とサービスの向上が図られるよう一層の努力を望む。

代表監査委員 竹田 謙一
監査委員 丸川 雅春

地方債（借金）の状況

●地方債とは、町が会計年度を超えて行う借入れのことです。



■その他地方債とは

災害復旧や義務教育施設整備等のための借り入れ。

■臨時財政対策債とは

国の財源不足を補うための地方の借り入れ。
返済額の全額が普通交付税として町に入る。

■過疎債とは

過疎地域にあたる市町村限定で、発行が認められる借り入れ。
償還額の7割が普通交付税として町に入り、残りの3割を町が負担する。

白鷹町の財政力

| 区分・年度 | 令和元年度 | 平成30年度 | 平成29年度 | 説明 |
|---------|-------|--------|--------|------------------------|
| 財政力指数 | 0.292 | 0.288 | 0.283 | 高いほど自主財源の割合が高く、財政力が強い。 |
| 経常収支比率 | 88.9% | 89.2% | 89.4% | 低いほど独自の政策のために使えるお金が多い。 |
| 実質公債費比率 | 8.4% | 8.2% | 7.5% | 収入に対する負債返済の割合。 |

決算特別委員会

歳入 (町の収入)

質疑

税の収納率向上への
取り組みと課題は

小口委員

法人町 民税、製
造業の法人税割の減少
が影響し、16・4%、
約1300万円減少。
製造業の不調の原因は。
また、個人町民税も
2・3%の減少。個人
所得の傾向は。町内経
済への状況をどう分析
したか。

税務出納課長

製造業の不調は、米
中貿易摩擦の影響によ
る受注の減少、昨年10
月の消費税増税以降、
自動車販売の低迷など
が原因とみられる。
個人所得の傾向は、
給与所得は横ばいであ
るが、自営業者や農業
従事者の事業所得、分
離譲渡所得、退職所得
が減少している。納税
義務者も減少。自営業
者や農業従事者の高齢
化に伴う廃業や、畜産
業や露地野菜の販売の
減少が原因と分析して
いる。

小口委員

収納率
向上に向
けた取り組みと課題は。

税務出納課長

個人住民税の特別徴
収、郵便局やコンビニ
での収納による納付機
会の拡充を図っている。
現年度分を確実に納め
新たな滞納を増やさな
いことを基本とし、過
年度分は納付相談など
を行っている。納期限

を過ぎた場合は督促状
を送り、納付相談を進
めていく。
保育料、上下水道料
などの税外徴収も含め
た町全体の収納率向上
に向けて、収納率向上
対策委員会を設置し、
収納対策などの協議を
している。

小口委員

自主財
源を今後
どう確保していくのか。

税務出納課長

新型コロナウイルスの影響に
より、今年度は減収が
懸念される。固定資産

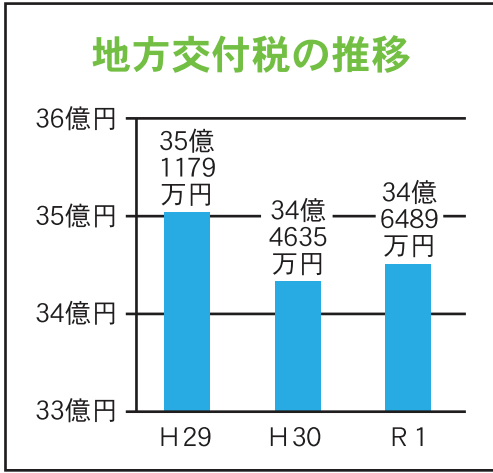
副町長

税の2か月納期延長や
ほぼ全ての税目の徴収
猶予、国民健康保険税
などの減免に取り組ん
でいる。納付が難しい
場合は相談を進め、納
税しやすい環境を整え
ていく。

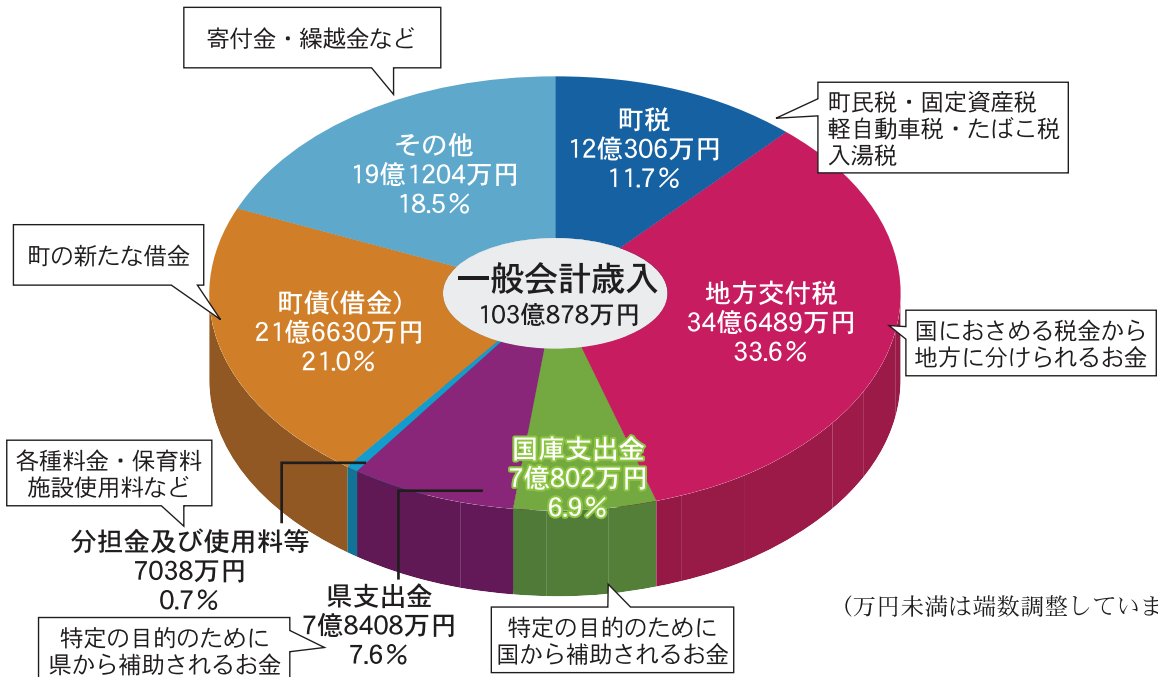
消費税導
入後、間接

税の比重が直接税を超
えるような税体系に変
わった。国、県の動向
を踏まえながらも、自
主財源の確保について
は徴収の部分で最大限
努力する。

地方交付税の推移



(万円未満は端数調整しています。)



(万円未満は端数調整しています。)

歳出 (町の支出)

質疑

総務費

山形鉄道の利用拡大を

金田委員

山形鉄道 山形鉄
道損失等
財政支援負担金と山形
鉄道経営改善補助金の
違いは。

企画政策課長

損失等財政支援負担
金は、沿線自治体が施
設の維持管理を支援す
るもので、運営改善補
助金は、固定資産税相

当分を交付しているもの。

金田委員

利用拡
大に向け
どのような話し合いが
されているのか。

企画政策課長

利用拡大につながる
プロジェクトやマイレ
ール意識を向上させる
ためのピーアール事業
などを検討している。

金田委員

ここ数
年の利用
者数の推移は。

企画政策課長

年々少しずつ減少し
ている。平成30年の
57万8千人に対し、令
和元年は53万人になっ
ている。

荒砥高校の存続

横山委員

荒砥高
等学校活
性化事業補助金の事業
成果は。

企画政策課長

荒砥高校を存続する
ための生徒確保が大き
な目標だが、2年連続
で定員の3分の2を割

り込み、令和2年度募
集から1学級減の定員
4名となった。
入学した生徒が快適
な生活を送る中でさま
ざまな役割を果たして
いると捉えている。

り込み、令和2年度募
集から1学級減の定員
4名となった。

り込み、令和2年度募
集から1学級減の定員
4名となった。

民生費

婚活への支援

横山委員

婚活サ
ポート事
業補助金の目標や成果は。

町長

少子化を乗
り切る一つの
手段であり、目標など
は設けるべきではない
と認識している。効果
は数字で表せるもので
はなく、皆様の盛り上
がりが良い影響を及ぼ
すと信じている。今後
とも積極的に支援をし
たい。

横山委員

近場の
お店で交
流機会を設ける取り組
みの成果は。

健康福祉課長

6店舗で開催し、約
90名にご参加いただい
た。

横山委員

お店側
の運営が
スムーズにいくような
サポートを町は行った
か。

健康福祉課長

お店側で工夫してい
ただけるよう事前に伝
えており、慣れないな
がらもご協力をいただ
いていると認識してい
る。

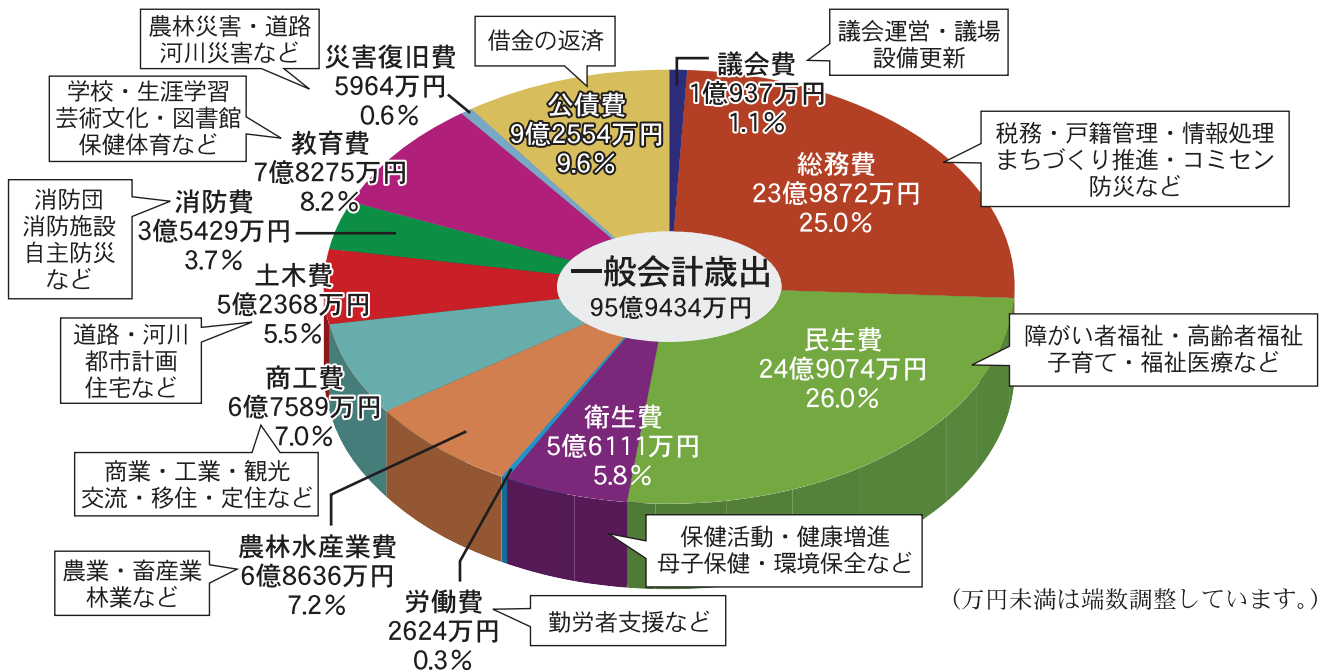
地域生活支援事業の 実績が減少している

竹田委員

日中一
時支援事
業や移動支援事業の支
出が大幅に減少してい
る。要因は。

健康福祉課長

日中一時支援は見込
みより利用が少なくな
ったことと、コロナの影
響で利用控えが影響し
たと思われる。移動支
援は主に通学支援であ
るが、年が明けてから
利用要望が少なく、コ
ロナにより3月は利用
がなかった。





竹田委員 日中一時支援は家族負担軽減機能が有り、移動支援も本来は障がい者（児）の外支出援。町内や近隣にサービス提供事業者が少ないということか。

健康福祉課長 日中一時支援は置賜管内に3施設あるが、早めに申し込みが必要など、利用したいときに利用できない環境にあるのではないか。移動支援は、近隣市町の事業者にも登録者が多く、すぐに使えない状況である。

衛生費

ごみ削減への取り組み

横山委員 人口が減る中、ごみの量は増えた。削減への取り組みは。

町民課長 毎年の排出量とともに、ごみの減量に向けたポイントなどを広報紙に載せながら、取り組みをお願いしている。

農林水産業費

担い手への農地集積を

金田委員 機構集積協力金の実績が減少しているが。

農林課長 見込み措置と要件の確認をした結果、差が生じたことや法律の見直しによる実施要領の改正などによる。

中山間地域等直接支払い交付金の状況は

山口委員 中山間地域等直接支払交付金、第4期対策の5年間の状況は。

農林課長 前期より四つ減の17集落が協定した。面積では12・44ヘクタール減。協定参加者の減少、高齢化、担い手不足もあり、取り組みそのものも厳しい状況であるが、頑張つて取り組んでいただいた。

山口委員 農業生産活動ができなくなった場合に

生じる交付金返還はあったのか。

農林課長 継続不能に伴う返還はなかった。ただし、農地等の面積誤りがあり、返還し是正している。

商工費

どうする六次産業化

金田委員 六次産業化支援事業の実績が計画に比べて極端に減額となった要因は。

商工観光課長 一次産品を加工する方々にご案内を差し上げて、説明会を開催するなどしながら進めてきたが、結果として事業要望が少なく、このような実績となった。

観光交流大使

笹原委員 6年にわたり貢献いただいた観光交流大使も元年度をもって終了となる。活躍が町民に伝わらなかったのではないか。

商工観光課長 3人がそれぞれの分野で町民と交流はしていたが、広がりをもたせることはできなかった。

笹原委員 集大成として考えていることはあるのか。

商工観光課長 今回で事業を終えたという総括は何らかの形で町民の皆様に伝える。

町産材の活用状況は

山口委員 町産材等木造建築推進事業について、工事費支援と町産材購入支援の補助金の額は。

商工観光課長 工事費の支援は39件で368万円。住宅が34件（うち新築7件）付属建物5件（うち新築4件）。購入支援は14件で360万円。合わせて728万円の補助となった。

土木費

すまいる住まい！若者定住サポート事業の実績は

竹田委員 事業の実績は。

建設水道課長 町内の若者世帯は17件、町外からの移住者は4件、計21件の実績。うち町内の業者による施工は8件であった。



山口委員 緑の循環構築に重要な、町産材の需要状況、使用状況は。

農林課長 昨年は白光園の工事などに町産材を使用した。

町長 それぞれの業界からも声が掛かっており、少し明るい方向に持っていけるのではないか。

特別会計

教育費

ALT(外国語指導助手) 1名増員の成果は

竹田委員

ALTの1名増員分はどのように配置したのか。また、成果は。

教育長



小学校に2名配置し、年間で荒砥小が110日、ほかの小学校は75から78日配置できた。英語が身近なものとして感じられ、積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童の態度の育成にもつながっていると捉えている。

健康福祉課長

態の方が減少し要支援状態の方が増えたのか。

介護保険認定者数は903名で前年度より約40名の減。その中で要介護4から5の方が約30名の減であり、介護度の重い方が少なくなっていると思う。

竹田委員

介護予防や、要介護状態が進まないような取り組みを、町当局や関係者が継続してきた成果ではないか。

健康福祉課長

さまざまなステージに合わせた健康づくりや介護予防の活動の成果が出ているのではないか。地域の自主的な取り組みも積極的になされている結果も出ていると考えている。

町長

医療も含めて健康的なものをづくり上げていくということが、重症者や重篤な方をつくらない方向になってきているのではないか。

町立病院 事業会計

病院経営の考え方は

奥山委員

入院患者が前年度より外科では増、内科は減。要因は。

病院事務局長

褥瘡(床ずれ)処置患者や、大腿骨頸部骨折などによるリハビリ目的で転院してくる患者が増えている。

奥山委員

患者が少なくなれば、光熱水費等を経費削減しなければならぬ。空調熱源装置更新に関しての考え方は。

病院事務局長

24時間365日患者様がいる中で光熱水費の節減は難しい。更新した装置は電気と重油のハイブリッドで、停電時は重油のみで稼働し、震災などで重油入手が困難なときは電気のみで稼働可能。電気代も約9%減で、省エネと経費節減の効果がみられる。



みんなで楽しく健康づくり

奥山委員

介護との連携、医師の確保、医師と看護師の働き方改革の考え方は。

病院事務局長

大きな病院よりも働きやすい環境ではないか。有給休暇の5日以上取得も守られている。医師確保はなかなか厳しい状況。介護連携は、訪問看護をしながら、地域包括支援センターとのやり取りもスムーズにしている。地域包括ケア病床は今年度中の取得を目指している。



国の新事業を活用

から さわ しゅん せつ 庚沢川浚渫事業に1,100万円

補正 予算

一般会計補正予算の主な内容

新型コロナウイルス感染症対策関連

- ・新型コロナウイルス感染症対応の保育所、こども園、放課後児童クラブ職員への慰労金給付 752万円
- ・母子手帳アプリにオンライン相談機能を付加 3,000万円
- ・白鷹町地域経済変動対策基金積立 3,000万円
- ・企業が新しい生活様式を実践するために必要な物品の導入を支援 3,353万円
- ・観光事業出店者が、来年度以降も参加を継続するために支援 616万円
- ・感染症拡大防止及び事業継続のため、企業のオンライン化促進への支援 1,002万円
- ・企業の事業承継や雇用継続への支援 200万円

緊急浚渫推進事業 1,100万円

災害復旧のための河川の浚渫工事。

荒砥地区防災倉庫整備事業 1,550万円

災害対応及び避難所対応のための防災倉庫整備。

元気な農業経営による所得1.3倍プロジェクト 210万円

農業経営改善計画の認定を受けている経営体へ農業用機械の導入を支援。

小・中学校情報教育推進事業 973万円

小学校、中学校のGIGAスクール整備事業に大型ディスプレイを追加導入する費用。

病院事業会計貸付金 1億円

町立病院の経営維持のための短期貸付金。

など

◎ 財源は国、県支出金、繰越金などで対応します。

質疑

緊急浚渫推進事業

横山委員 緊急浚渫推進事業の対象となる河川は。
建設水道課長 横田尻地内の準用河川庚沢川が対象である。内容としては倒木の処理、伐採、浚渫（土砂の除去）などである。

横山委員 庚沢川が対象となった経緯は。
建設水道課長 以前に災害が起きたというところで、地域から倒木処理等の要望がかねてからあった河川である。他の河川についても現場を確認しながら順次対応していきたい。



流域にたくさんの倒木が（庚沢川）

荒砥地区防災倉庫整備の目的は

丸川委員 荒砥地区防災倉庫は指定避難所の倉庫と理解しているのか。
企画政策課長 指定避難所として必要な物資等の他にコロナ対策の感染予防の衛生用品等も備蓄していく。

丸川委員 地方債も使われ、高額になった経緯は。
総務課長 軽微な物置的な倉庫ではなく防災倉庫という位置づけで、緊急防災・減災事業債に該当するものということで整備する。

令和2年度補正予算総括表

| 会計項目 | 今回補正額 | 補正後の額 |
|------|-------|------------|
| 一般会計 | 3億円 | 100億4700万円 |

（※万円未満は端数を調整しています。）

条例

●白鷹町地域経済変動対策基金条例の設定

新型コロナウイルス感染症の影響が拡大しているなか、中小企業などの経営安定化と本町産業の振興のため設定するもの。

(3頁に関連記事)

●白鷹町町税条例の一部改正

固定資産税の納税義務者に関する規定を定めるなど、所要の整備を図るもの。

●白鷹町放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正

放課後児童支援員認定資格研修の実施機関を追加するもの。

人事

●白鷹町教育委員会委員

向田 俊一氏(広野)

任期満了(9月30日)に伴い、引き続き任命するもの。

契約・取得

●白鷹町郷土資料館整備工事請負契約の締結

契約の目的 白鷹町郷土資料館整備工事

契約の方法 指名競争入札

契約金額 1億615万円

契約の相手方 共栄建運株式会社



●学習者用コンピューターの取得

取得しようとする物件

学習者用コンピューター

900台

取得方法 指名競争入札

取得予定価格 6,982万8,000円

契約の相手方 株式会社データシステム米沢

議会臨時会

7月9日に令和2年度第5回白鷹町議会臨時会が開催され、令和2年度補正予算2件について審議し、全会一致で可決されました。一般会計において、補正額が3億3,210万円となり、主なものは新型コロナウイルス感染症対応臨時交付金を活用した地域経済活動の浮揚や町立病院事業運営の補助に充当するものです。

表紙

荒高LOVE 文化祭!

8月28日に開催された荒砥高校文化祭の1コマです。

「LOVE」を制作された生徒さんのお話を伺ったところ、クラスの間や全校生徒に思いやりの気持ちを込めて、11名が1週間かけて作り上げた作品と教えていただきました。コロナ禍により体育祭などのイベントが開かれず残念だったと思いますが、その悔しさもバネに全力で文化祭を楽しまれたのではないのでしょうか。

荒砥高校は素晴らしい学校です。生徒さんの活躍に、これからも大いに期待しましょう。



録画を配信

災害対策と避難所運営の充実を

町長 課題を整理し対応を検討したい



横山和浩議員

住宅地の浸水対策

問 大雨が降るたびに水が溢れて困っている住宅地もある。現状の認識と今後の方針は。

町長 用水路については、河川改修と共に検討すべき箇所があると認識している。今後の河川整備は課題を整理し対応を検討したい。

問 整備される間にも災害は起きうる。町民が自ら行う対策などへの補助は。

町長 源八沢(鮎貝)付近の用排水路が氾濫した様子は私も現場を確認したが、現時点では個々に対する

取り組みは考えていない。

避難所の運営

問 区長さんほか地域の役職者は災害時に多忙である。自主防災組織の方々が不在でも指定避難所が運営される仕組みが必要では。

町長 画一的な対応は困難であり、職員体制の強化を含めて臨機応変に対応できる体制づくりを検討する。内閣府の防災基本計画が修正されたので、本町も防災計画を改定したい。

問 防災計画の改定と避難所運営マ

ニユアルの作成のスケジュールは。

総務課長 避難所運営マニユアルは、自主防災組織から意見をいただいているところ。防災計画は今年度中と考えている。

問 7月の豪雨で把握できた課題などは。

総務課長 避難所において連絡体制がうまくいかなかったことやテレビなどが無い避難所があったことなどがある。

問 指定避難所を単位とした自主防災組織の連絡組織が必要では。

町長 各避難所単位での訓練や組織づくりについて検討する。

鷹山地区の避難所

問 鷹山地区における土砂災害時の指定避難所は旧鷹山小学校スポーツ交流広場だが、実際に避難所と

して開設された鷹山地区コミュニティセンターを指定避難所とすべきではないか。

町長 当地区については鷹山地区コミュニティセンターを避難所の候補の一つとして想定したい。

問 速やかな検討を施設には整備などが必要では。

町長 イエローゾーン(土砂災害警戒区域)にあることも理解している。トイレ改修などの要望がある。検討したい。

災害時の情報発信

問 災害時の情報発信を充実し、情報の面から安心安全で住みやすい白鷹町を推進していただきたい。

町長 世帯環境により個別受信機の導入も選択肢の一つとして前向きに検討を進める。

問 地図アプリを使い、道路通行止め情報をリアルタイムで共有した自治体がある。有用だが、限られたマンパワーなどの優先度を考慮し十分な検討が必要である。



源八沢(鮎貝)付近の増水

農業生産額の拡大に向けた取り組みは

町長 生産者及び農業団体等と一緒に前へ進んでいく



録画を配信

農業生産額の現状は

問 農業生産額が右肩下がり要因と認識は。

町長 最も大きな要因として、高齢化によるリタイヤや後継者不足などで農業後継者が減少していること。特に機械化が難しい作物について規模を縮小していることが要因と認識している。

問 農業関係団体の間でどのような議論があるのか。

農林課長 農業関係団体が策定している農業振興計画と町の計画との整合性を図りながらの具体的な検討までは至っていない。

農業関係団体の具体的な事業要望は。

問 農業関係団体の具体的な事業要望は。

農林課長 具体的などころまではないという状況。

補助事業の取り組みは

問 補助事業の具体的な方向性は。

農林課長 認定農業者については、経営改善計画の機械導入計画に基づく取り組みを支援するというスタンスで取り組んでいる。

問 周知方法と取り組みはどのようなものか。

農林課長 認定農業者、認定新規就農者の方々を中心に、各種補助事業の資料などの直送、町のホームページへの掲載、農業関係機関の協力を得ながらの取りまとめを実施している。

問 補助事業の採択率は。

農林課長 最近の5カ年で38件の事業が申請され、採択された件数は13件であり、採択率は34%である。うち農業法人が7割を占めている。

問 白鷹町独自の農業関連、特に直接農業者に関連する農業振興予算はどの程度あるのか。

農林課長 令和元年度に国等の事業を活用した事業費で約3800万円、うち一般財源は637万円。そのほか町単独で取り組んでいる事業は約300万円である。

農業関連組織の関わりは

問 農業の最高意思決定機関である白鷹町農業再生協議会で議論をすべきなのは。

農林課長 農業生産額の拡大については、課題と捉えながらも議論してこなかった。今後機会を捉えながら検討していく。

問 園芸作物の話し合いはほとんどない。どのように考えているか。

農林課長 以前、園芸作物に特化した振興策を検討した経緯があったが、現在は機能していない。今後、関係機関と連携して検討していく。

町長 生産現場の声がなかなか届いてこない。生産者の声をまとめ、提案する大きな役割をJAは担っていると思う。一緒に進んでいきたい。

※「人・農地プラン」

地域で将来的に誰が、どの農地を、どのようにして農業を進めていくのかを話し合っ作する計画（プラン）です。白鷹町では、19地区で作成されています。

総務厚生常任委員会

荒砥高校の魅力化に協議会

9月8日に総務厚生常任委員会を開催し、荒砥高等学校魅力化に係る地域連携協議会について説明を受けた。

【経緯】

山形県は県立高校の再編整備への基本計画を示した。町は荒砥高校の魅力化に係る地域連携協議会を設置。9月2日に第1回会議が開催された。

質疑

何を学ぶか

委員 魅力化の一つに何を学ぶかがある。想定は。

当局 さまざま積み上げながら県教委とも意見交換したい。

協議会の意見は

委員 協議会からの意見は。

当局 コミュニケーション能力向上や基礎学力向上など。先生から

は少人数ゆえのメリツトや意見をいただいております。そういった面も掘り下げたい。

意見の反映は

委員 荒高をサポートする会からの意見の反映は。

当局 いずれ組織体としての調整が必要。どういう支援ができるかを考え、取り組みたい。

見える化を

委員 荒砥高校に入れたい。どのように見えるかが見えれば魅力になるのでは。

当局 いろんな形で議論しサポートしてきた。学校、保護者も努力してきた。荒砥高校の生徒であることにプライドを持ってるように支援していきたい。



選ばれる高校へ

感染症防止対策は盛り込まれるか

白鷹町地域防災計画の見直しについて説明を受けた。

【経緯】

国の防災計画が修正されたことで、これまでの課題を踏まえながら町の地域防災計画を見直す。

質疑

区長等の意見は

委員 計画策定段階で区長などから意見聴取の機会はあるか。

当局 最終的には白鷹町防災会議にはかる。

定員超えの対応は

委員 定員を超える避難者があった場合の対応も、計画に盛り込む予定か。

当局 基本的には指定避難所だが、コロナ等により配慮する。自主避難所への対応は区長さんとの共通認識が必要。ケースバイケース

だが責任をもって対応していく。

感染防止対策

委員 避難者は集まりがちになるが、その対策も網羅されるのか。

当局 スペースを確保して離れていた。多くのがベストだが、消毒、検温などの健康チェックをしつかりしていただき、感染防止対策をしていきたい。



地域等への周知は

委員 地域や関連団体への周知はどのように進めるのか。

当局 まずは関心を寄せていただくこと。自主防災などで活用していただくが、わかりやすいよう概要版を作成するなど対応したい。

その他

- 白鷹町国土利用計画の策定
 - 白鷹町まち・ひと・しごと創生戦略KPIの評価
 - 白鷹町災害廃棄物処理計画の策定
 - 第2期白鷹町空家等対策計画の策定
 - 白鷹町地域福祉計画の策定
 - 新型コロナウイルス感染症対策関係事業
 - GIGAスクール構想（P15に詳細）
 - 郷土資料館整備事業の状況
- などについて、説明があった。



GIGAスクール構想（1人1台端末）

国の「GIGA（ギガ）スクール構想」（※1）に基づき、白鷹町の小中学校でも「児童生徒に1人1台端末」＋「高速大容量の通信ネットワーク」の整備が始まりました。

総務厚生常任委員会での質疑抜粋（9月8日）

委員 3月15日が端末の納入期限となっているが、実際に使い始めるのは。

当局 端末と校内LANの整備が揃って使えるようになる。先生方の研修も必要であり、令和2年度内は難しいと考えている。

委員 先生方の研修はどのように進めるのか。

当局 オンライン研修を受けられるパッケージであり、端末導入後に時間を取りながら研修を進めたい。GIGAスクール構想推進検討会で、研修の在り方を検討したい。

委員 端末等の貸与条件などは。

当局 子どもたちへの周知ルールづくりも進めている。推進検討委員会で併せて考えたい。

委員 モバイルルーターの貸出料金は各家庭で負担するのか。

当局 原則として利用料は各家庭での負担と考えている。

委員 将来的には教科書がタブレットに入ると聞く。そのあたりの話を進めていただくという理解でよいか。

当局 学力テストを端末で行う構想もある。検討会で話をしたい。

委員 機種選定ではどのような機種となったのか。

当局 機種選定委員会において、特に授業支援ソフトについては先生方からのアンケートを生かすソフトを選んだ。メーカーなどの指定はせず、仕様の中で提案をいただく。

G I G Aスクール構想（※1）

これまでの学校教育に最先端のICT教育（※2）を取り入れる国の構想です。新型コロナウイルス感染症をきっかけに、機材導入に拍車がかかりました。

従来行われてきた一斉教育だけでなく、多様な子どもたちを誰一人取り残すことのない学びや、創造性を育む学びにも寄与するものです。

特別な支援が必要な子どもたちの可能性を大きく広げることが期待されています。

I C T教育（※2）

I C Tは「情報通信技術」と訳されていて、パソコンやタブレットなどを用いてインターネットなどの情報通信技術を活用するものです。

授業の幅を広げたり、やる気を高めたり、楽しめる学習への期待があります。



産業建設常任委員会

町営住宅整備に民間の力を活用

9月9日に産業建設常任委員会を開催し、町営住宅の整備・管理手法について説明を受けた。

【今後の考え方】

町営住宅の整備・管理についてはこれまで「公設公営」を採用してきたが、庁内において建築専門の技術職員を確保できていないため、従来の方式に固執することなく、民間活力を活用していく必要がある。

の立替施工制度をはじめ、空き家解体の促進を図る再生支援事業や町営住宅の管理支援事業を活用する方向である。

立替施工制度の手続きは次のように進められる。

- ① 公社と協定を締結。
- ② 公社が協定に基づき費用を立て替えて住宅を整備。
- ③ 完成後、住宅は町に引き渡され、町は一括か分割で事業費を返済。

【今年度の予定】
今年度は子育て支援住宅（Ⅱ期）の実設計業務を委託する方向である。

【活用手法】
山形県住宅供給公社



現在の子育て支援住宅

質疑

【委員】この方法のメリット、デメリットはどのようなものがあるか。

【当局】公社への事務手数料として施工業者へ外注費5%の支払いがあるが、さまざまなメリットがある。

【委員】入札の予定価格も公社で設定するのか。

【当局】公社になるが、町の方針を伝えての設定になる。

【委員】維持管理業務を委託した場合の業務内容は。

【当局】現在はすべて町が直接対応しているが、すべて管理委託が可能なので、内容を選びながら委託したい。

快適に冬を越せるために

今年度の除雪計画について説明を受けた。

【今年度除雪計画】

昨年度は例年になく少雪のため、ロータリー専用路線の導入、西側地域へのドーザー一台追加など、路線の見直し調整による作業の目標時間内終了にかか

る効果検証を行えなかった。今年度は次の点に留意しながら計画する。

- ① 雪押し場の確保
- ② 歩道除雪への対応
- ③ 雪捨て場の確保

【持続可能な計画】

将来的にみて、オペレーターの確保・育成、除雪機械の維持などが課題となるため、今年度以降も降雪の状況によつては、機械損料に加えて人件費の補填料を支給する方向で検討していく。

また、除雪路線についても、人口減少や空き家の増加などにより、関係区と見直しについて協議していく。

質疑

【委員】ロータリー専用路線とは、ある程度の積雪が必要となったため使用している路線か。

【当局】最初からロータリー除雪車を使用する路線。幅員確保などの効果はあるが、検証しながら対応したい。

【委員】除雪路線見直しについて、把握している不要と思われる路線は。

【当局】地元区長と相談させていたたいっている路線はあるが、時間をかけて検討させていたたい。

【委員】国道348号の迂回路となつている農免道路の冬季対応は。

【当局】幅員が狭く、法面が急峻なため、除雪作業への不安がある。雪崩の心配もあり、冬季の開通は慎重に検討したい。

その他
○ 白鷹町立地適正化計画策定の中間報告
○ 白鷹大橋開通に向けた取り組み
○ ふるさと森林公園再整備計画の状況について説明があつた。

全員協議会

感染症・経済対策を万全に

8月20日に全員協議会が開催され、感染症対策本部、緊急経済対策本部の状況などについて説明を受けた。

【これまでの経緯】

22回の感染症対策本部会議と13回の緊急経済対策本部会議を開催し対応してきた。

その間、7月13日に本町で初めて、町内のドライビングスクールに免許合宿に來られた東京都在住の20代男性の感染が確認されたが、保健所による濃厚接触者の把握、消毒などの指導がなされ、その後の感染拡大はなかった。

質疑

委員 庁舎の空調設備整備の詳細は。

当局 役場、中央公民館併せて、シーリングファン7か所を予定している。

委員 総合防災訓練と秋季演習は開催予定で進んでいるのか。

当局 今のところ予定どおり実施することによって準備を進めている。

委員 紅ほっぺのオンライン化は具体的にどのような事業か。また、いつから使えるようになるのか。

当局 大型モニターの設置、写真出力プリンターの設置、インカム購入などを進め、11月から稼働したい。

委員 医療従事者慰労金は、最大20万円とあるが、20万円支給されない方もいるのか。

当局 町立病院では最大20万円に全員該当する。

総務厚生常任委員協議会

町民生活が向上する方針に

8月20日に総務厚生常任委員協議会が開催され、白鷹町ICT（情報通信技術）推進方針について説明を受けた。

【策定の趣旨】

近年、AI（人工知能）などの新たなICTが著しく進展しており、人口減少や少子高齢化など町が抱える課題に対応するには、社会のさまざまな分野におけるICTの活用が不可欠となっている。

そのため、ICTの活用により、生産性の向上、町民生活の質の向上を推進することを目的とする。

【推進期間】

3年間（R3～R5）

質疑

委員 ICT推進方針の対象は。

当局 町が進めているさまざまなデジタル化情報通信に関する分野が入ってくる。役場の手続きなどに関するデジタル化も含まれる。

委員 現段階での課題は。

当局 スピードとセキュリティの確保。セキュリティを確保しながら使いやすいものにするということ。システムを作っても使っていないように研修も含めて進めていかなければならない。

産業建設常任委員協議会

意欲ある農業者に支援を

8月20日に産業建設常任委員協議会が開催され、人・農地リニューアル事業について説明を受けた。

【目的】

高齢化や労働力不足、土地持ち非農家の増加などにより発生している荒廃農地について、新規就農者や地域の担い手が当該農地を引き受けて再生作業を行う取り組みや荒廃農地の解消及び農業後継者の確保・育成を推進するために支援する。

【対象地区・面積】

萩野地区

130アール

菖蒲地区

51アール

質疑

委員 菖蒲地区について、約30年前、ラ・フランス等を約7ヘクタール植栽したが、荒廃農地が目立つようになってきた。この農地の

うち、今回実施する補助事業以外の区域の計画はどうなっているか。

当局 現段階では今回の対象面積のみ計画している。

委員 事業スケジュールをみると、今年の作付けには間に合わない。来年度も継続であれば、早めの事業展開をお願いしたい。

当局 今年度に入ってから山形県より照会があり、この時期にならざるを得なかった。今後も継続と考えられるので、農家ニーズにより進めたい。



知れば得する“ぎかい”のキホン

第6回 政策提言

せいさくていげん

政策提言とは、政策決定者の町長に対し、各分野の課題を探し出し、全議員の総意として政策や施策を提言するものです。白鷹町議会では2010年から提出して今年で10年目。2015年からは提言に対する回答を頂いています。

これまでの提言（大きな項目）

議会だよりの政策提言記事が
ご覧になれます



2010年12月

1. 福祉施設などの充実
2. 共創のまちづくりの充実
3. 地域コミュニティの充実
4. 職員の資質向上と行財政改革の推進
5. 地域高規格道路米沢・白鷹間の長井白鷹ルートについて
6. 白鷹町産業の活性化策の構築

2010年度

2011年9月

1. 福祉施設などの充実
2. 防災体制の強化・充実
3. 職員の資質向上と行政改革の推進
4. 地域高規格道路米沢・白鷹ルートについて
5. 白鷹町産業の活性化策の構築

2011年9月

2012年9月 | 2013年9月

1. 子育て支援と介護予防などの充実
2. 公共施設等の計画的配置
3. 防災体制の強化・充実
4. 職員の資質向上と行政改革の推進
5. 地域高規格道路米沢・白鷹ルートについて
6. クリーンエネルギーの活用について
7. 白鷹町産業の活性化策の構築

2012年度

2013年度

2014年10月 | 2016年12月 | 2017年12月

1. 少子・高齢社会における対応について
2. 安全安心なまちづくりについて
3. 主要道路網の整備促進について
4. 白鷹町経済の活性化について

2014年度

2016年度

2017年度

2015年11月

1. 少子・高齢社会における対応について
2. 安全安心なまちづくりについて
3. 主要道路網の整備促進について
4. 白鷹町経済の活性化について
5. まちづくり複合施設等整備の進め方について

2015年度

2018年11月 | 2019年11月

1. 人口減少対策について
2. 安全・安心で住みよいまちづくりについて
3. 白鷹町の活性化について

2018年度

2019年度

政策提言の流れ



昨年度の提出（2019年11月）

提言が施策に反映されたもの

- ◆ 医療費の自己負担の無料化を18歳まで拡充
- ◆ 子育て支援施設「にこぼーと」の充実
- ◆ 子育て世代包括支援センターの設置
- ◆ 首都圏での移住相談会の実施や情報発信
- ◆ 除雪車運行管理システムの導入
- ◆ 買い物ポイントサービス事業の実施
- ◆ 緑の循環システムの構築
- ◆ 町産材等の木材乾燥施設の整備
- ◆ 森林境界明確化事業の実施
- ◆ 「婚活サポート委員会」による結婚支援
- ◆ 地域づくり推進交付金の創設
- ◆ 移住定住や空き家利活用促進の支援金創設

政策提言は議会の総意であり大いに重視し、施策にも反映するよう配慮している。

（当局）





— あの質問のゆくえ — ALT(外国語指導助手) の増員

英語教育の必修化や教科化に備え、
ALTの増員を図ってもらいたい。
(平成28年9月議会)

答弁

児童生徒へALTの果たす役割は大きい。
増員は、他市町の動向を踏まえ、できるだけ
早い段階で実現していきたい。

どうなった

ALTの配置人数は計画的に増員 現在4名

平成2年8月からALT(外国語指導助手)を配置し、今年でちょうど30年が経過した。これまで、子どもたちのコミュニケーション能力の向上やグローバルな視野の育成に寄与してきた。

新学習指導要領により、小学校では3・4年生は英語活動35時間、5・6年生は英語科70時間が必須化され、令和2年度から全面实施となった。

配置人数は、平成28年度までは1名、平成29年度からは2名、令和元年度は3名、令和2年度からは4名と計画的に配置した。

今年度は、ALT3名を小学校専任とし、ほぼ全ての英語授業でALTが対応できるようになった。また、休み時間など学校内でフレンドリーに会話する子どもたちとALTの姿も見受けられ、自然にコミュニケーションを取る雰囲気も醸成されている。さらに、保育園・こども園にも訪問し、幼少期から英語に触れることができる環境を整えている。

今後とも、「主体的・対話的で深い学び」につながる英語教育、そして楽しく学べる英語となるよう、ALTの積極的活用と教員の連携した取り組みを進めていく。



計画的な取り組みを評価する。更なる英語教育の充実を期待する。



梅津 晶一 さん(十王・龍澤寺)

ボランティア

白鷹の未来を彩る

… 癒やしの寺カフェ …

癒やしの寺カフェを開催する梅津晶一さんにお話を伺いました。

どんな活動ですか
坐禅、妻が習うやさしいヨガの伝達講習、仏教にまつわる短いお話、そして茶話会などの集いです。寺をもう少し身近に感じたいとお話があり始めました。

2時間ほどですが、心と身体をほぐした後の茶話会は、ある意味、一番盛り上がるかも。(笑)

良かったことは
来られた方が元気に帰られることですね。気持ちが悪くなった、腰が楽になった、という声、何より励みになっています。

いつからですか
月一回の開催で約3年前に始めました。これまで32回ほど開催しています。12月13日人がちようど良い人数なので広く募集はしていませんが、ご友人をお誘いくださるなどクチコミで少しずつ広がっているようです。

ポイントカードを作るなど工夫もしている、リピーターさんが増えているんですよ。

寺の場の敷居を低くして癒しの場にすることは大事だと思っていますので、今後**も続けたいです。**



心と身体に癒しの時間を

青少年育成町民会議の会長として活動されていますが。

青少年育成町民会議
先達の活動を引き継いで10年ほど会長を仰せつかっています。

近年は中高生のオーストラリア研修発表会の運営を担うことになり、発表と併せて子どもと大人のワークショップを開催しました。参加された多くの方から好評価のアンケート結果をいただき、とてもうれしく思っています。



ひとこと
子どもたちが大人と触れ合う機会が少なくなつたように感じています。

もっと子どもたちと大人が一緒に考えた、子どもたちの意見や考えを聞いたりする機会があればと思います。

未来の白鷹町を担うのは彼らですから。

取材を終えて
子どもたちの夢や希望と向き合うことの大切さを教えていただきました。

次の世代が白鷹町の未来にワクワクできるよう、みんなで知恵を出し合えるような場づくりが大切なのかもしれませんね。

(横山)

編集後記



7月末の豪雨により町内も大きな被害を受けました。被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。

また、コロナ禍の影響は楽しいはずのお盆も奪ってしまいました。これからインフルエンザの季節になってきます。適度な運動と睡眠、バランスのとれた食事で感染症に負けない生活を送りたいものです。

9月定例会は、令和元年度予算に対する決算議会でした。昨年度実施された事業結果に対し、さまざまな角度から質疑を行いました。ぜひ、議会だよりや配信された動画をご覧ください。

(笹原)

広報委員

委員長 笹原 俊一
副委員長・編集長 横山 和浩
委員 丸川 雅春
委員 竹田 雅彦
委員 金田 悟
印刷・(有)梅津印刷

お手持ちのパソコンやスマホなどで議会中継をご覧いただけます。録画でもご覧いただけます。

議会だよりのご意見・ご感想などを議会事務局までお寄せください。

